

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700125		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター東田	ユニット名	鈴蘭・皐月
所在地	福岡県北九州市八幡東区東田一丁目三番一―号		
自己評価作成日	平成27年4月17日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成27年4月29日	評価結果確定日	平成28年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流を推進すべく街づくり協議会に加入し地域の行事に参加することで、近隣住民及び企業に入居者様への理解を深めていただき、地域と共に高齢者を支えていけるグループホームを目指しています。
それぞれの今までの生活歴を大切に、生活リハビリを中心に現有能力を最大限に発揮できるように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ニチイケアセンター東田は、鉄筋造り3階建ての2、3階に位置する2ユニットの事業所である。1階は、同一法人が運営する小規模多機能型住宅介護事業所がある。周囲には、大型量販店等商業施設が並び、民家は皆無で、地域住民との交流が難しい立地でもある。そんな中、街づくり協議会に参加し、主に地域の商業店主等と交流を図りながら、地域に開かれた事業所作りを行っている。特に、設立時から掲げられた事業所独自の理念と、管理者の思い溢れる『ほほえみ新聞』の内容からは、本事業所が目指す姿がうかがえる。入居者の服装や各居室の様子から画一性は感じられず、一人ひとりの尊厳や暮らしを大切にしていることが実感出来る。またかかりつけ医と相談しながら、服薬は最小限に止め、副作用や行動抑制への意識を高めている。これら理念の実践は、他にも入居者の言葉をそのまま記録する日誌の中や、職員のヒアリング等、随所に確認出来る。以上の本事業所の取り組みは、地域住民との交流が難しい立地環境をいつしか凌ぐことが想像される。今後の展開が楽しみな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し掲示している。	設立時に、みんながひとつの方向に向かっていけるように話し合い、事業所独自の理念を作り上げている。その内容は、地域密着型サービスの意義を踏まえたものである。事務所内に掲示し、朝礼時に唱和する等、職員間での共有を図るとともに、リーフレットへ記載し、外部への発信も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住居スペースがなく近隣住民と交流を持つことが難しいが見学会を毎月実施している。	事業所の立地環境は、大型量販点等、商業施設に囲まれ、住宅地ではない為、その地で暮らす近隣住民との日常的交流を図るのは難しい。そんな中、街づくり協議会(周辺企業が加入)に参加したり、運営推進会議を通して民生委員と交流を図る等、可能な限りの取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険に関する無料相談を受け付けている。認知症講座を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い、日常を知っていただくようにしている。	2ヶ月に1回実施。民生委員や地域包括支援センター職員、家族の参加が見られる。議事録から、活動状況の報告、民生委員からの行事案内、地域包括支援センターからの研修案内、質疑応答、忌憚のない意見交換、情報提供等がなされていることが確認出来る。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと困難事例の対応を行い入居していただいた。運営推進会議に参加してもらっている。	研修会やグループホーム連絡協議会等を通して、連携を図っている。特に地域包括支援センターの職員とは、日常的に相談や情報提供等を行いながら、顔の見える良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間教育の中で身体拘束についての勉強会を行っている。	入社時と入社後のステップアップ研修、また日常的な注意喚起を行いながら、職員間で周知徹底に努め、身体拘束をしないケアに努めている。実際に身体拘束は行っていない。帰宅願望のある方についても、同行する等、根気強い対応を行っている。スピーチロックについても留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間教育の中で高齢者虐待についての勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度外部での研修に参加し、研修参加者は勉強会を開き職員へ周知している。	実際に、成年後見制度利用の入居者がいることから、職員は制度について理解している。併せて外部研修や勉強会を定期的実施することにより更なる周知を図っている。また契約時には、必要に応じて、制度について説明を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、契約内容について時間をとり説明をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けて無記名で意見が言えるように工夫している。毎年顧客満足度調査を行い意見を反映できるようにしている。	1年に1回、「顧客満足度調査」を実施している。その方法は、本社統括で無記名によるもので、より率直な意見の収集と、運営への効果的反映が図られている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開き職員の意見を聞くようにしている。	毎月の会議やカンファレンス時、定期的実施される職員面談を通して、職員の意見や提案の収集に努めている。職員へのヒアリングから、「①会議は意見の出しやすい雰囲気です。忌憚のない意見交換がなされていること、②日常的に管理者には意見を述べやすい環境であること」が確認出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、介護に関する方、勤務状態に		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接時は後世に採用の可否を検討している。	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。また定年退職後の継続雇用も行っており、65歳まで働くことが出来る。実際、65歳の方も働いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間教育の中で人権教育についての勉強会を行っている。	人権に関する研修を年間計画に位置付け、実施している。また理念を踏まえながら、日常的に業務を通して、人権教育・啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ時や各期末にスタッフ面談を行い、目標設定や計画について話す機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を用いできることできないことを把握している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居までの間に困っていること、望むこと今後の希望についての要望を聞くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を用いできることできないことを把握している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	にゆきよごの不安に関してスタッフが寄り添うことを第一としてなじみの関係が構築できるように配慮している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会后や外出後のことは気にせずなるべく多く面会してもらえるようにご家族に伝えている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を用い把握し、ご本人の気持ちを大切にしている。	家族のもとへの外泊や、いつでも可能な面会など、馴染みの人との関係が途切れないよう柔軟に対応している。また何気ない日常会話の中で発せられた言葉をもとに、大切にしてきた馴染みの人や場所の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様みんなで過ごす時間を設けて会話の橋渡しをすることで関係づくりを支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の関係各位への申し送りをしている。ご家族にも必要があれば連絡をしていただけるように説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いカンファレンス時にみんなでkン等を行っている。	アセスメントツールはセンター方式を活用。多角的視点から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また日誌には、実際に本人の話した言葉を記録することで、職員間で共有を図り、潜在化するニーズの掘り起しを行いながら、本人本位の検討を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用い把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿って個別に実施している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い情報の共有、問題点の抽出を行い介護計画に反映させている。	毎月のカンファレンスでは、日常的な気付きをもとに、職員間で忌憚のない意見交換がなされ、計画に反映されており、現状に即した計画作成が図られている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個別に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な要望に応えられるように検討し実施している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が参加できるも用紙を行うと共に毎月見学会を行っている。お客様が料理をする姿等に感心されている。今後はボランティア等も募って生きたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診できるように連絡調整をとっている。	本人・家族の希望を尊重し、家族と連携しながら、かかりつけ医への受診支援を行っている。医療機関とも良好な関係が築かれており、本人本位の適切な医療が受けられるよう努めている。併せて、看護師資格を持つ管理者が医師と相談の上、過剰な服薬を抑え、薬に依存しない支援に努めている。常時眠剤の服用者は皆無である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に助言を求める体制がある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との協力体制や関係づくりを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応について考慮している。	重度化や終末期に向けて、入居前に口頭で事業所の方針を説明している。方針自体についても、事業所として「出来ることと、出来ないこと」を明確にしていることがうかがえる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間教育の中で急変時や緊急時の対応について知識を得るとともに実践を想定した訓練を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	街づくり協議会に加入し災害時の避難等について話し合いをしている。	年2回の訓練を計画。内1回は実施済み。実施記録からは、全ユニットを対象とした火災想定避難訓練が実施され、評価と課題点が明確にされていることが確認出来る。残り1回の訓練については計画中とのこと。備蓄有。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を行っている。	計画的に研修を行い、職員間で周知徹底を図っている。入居者の服装や各居室の様子から、職員視点ではなく、一人ひとりの人格を尊重していることがうかがえる。またかかりつけ医と相談しながら、服薬は最小限度に止め、薬に依存しない支援に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるような質問内容や、それができない人には二者択一の質問をするようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	風呂の時間や食事の時間スケジュールはあるが臨機応変に実施できるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できるような質問内容や、それができない人には二者択一の質問をするようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ一緒に食事作りができるようにしている。	本社の栄養士が作成した献立を基に、入居者の好みや要望、季節を参考にアレンジした食事提供を行っている。調理の出来る人は参加し、片付けについてはほとんど自身で行っている。また外食や、出前、週に1回の「レク食」の実施等、食事を楽しむことが出来るよう努めている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人個人に合った口腔ケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時センター方式を用い一週間24時間の生活リズムを把握するように努め排尿感覚や、尿意の有無等を知り排泄がスムーズに行えるように努めている。	一人ひとりの状態や、排泄パターン、習慣を把握し、声掛け、トイレ誘導を行いながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。各ユニットには3ヶ所のトイレがあり、内1ヶ所は広く、ハード面での配慮もなされている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日1300ml以上の水分補給を目標としバランスの取れた食事の提供、排便は座ってを合言葉に工夫をしています。医療とも連携し便秘による周辺症状の悪化を予防します。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、曜日は決まっています。基本午後から入浴の時間としておりますが、朝風呂または就寝前の風呂も楽しむことが出来ます。	基本的に、毎日午後から入浴出来る。希望があれば夜間入浴も対応出来る。一人ずつ、本人のタイミングとペースでゆったり入浴出来るよう努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快い睡眠時間が持てるように好みに合った照明等の工夫を行っています。寝る前に温かい飲み物を提供したり、居室内の温度湿度の管理も行っております。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はダブルでチェックできるような体制をとっております。入居時にお一人ずつの飲んでいるお薬についても情報共有をしています。調剤薬局と連携し新しい薬が処方された場合は職員が説明を受けています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに一人ひとりの個別性を反映させ、できる事と出来ないことを把握した上で、役割を担っていただいています。趣味の継続が出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出かけたい方がいらっしやれば一緒に外に出ます。一人で飛び出した方についてはそっと遠くからついて行って疲れたところに声をかけるようにしています。個別の外出は難しいですが、ご要望があれば検討いたします。全員で外出した際はご家族と職員が一人ずつ対応し自由に動けるようにしています。	その日の天候や入居者の希望に合わせて、散歩に出掛けたり、日常的に食材購入や日用品等購入の買物に出掛けている。また要望に応じて、外食やドライブに出掛けることもある。	ハード面での難しさを理解しつつ、馴染みの場所への外出等、家族との連携も活かしながら、個別の支援についても検討していくことが期待されます。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した際はお小遣いをスタッフが持参し、支払いをお客さんと一緒に行きます。出来るところをしてもらいます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の気持ちを尊重しご家族と話したい時や必要時は電話をかけられるようにしています。レクリエーションの中で絵手紙等を作成し知人に出すという取り組みも季節ごとに行っています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快く過ごせるように空間作りをしています。環境整備も行い安心して生活できるように支援しています。	居間兼食堂は、季節の手作りの飾りが施され、暮らしに彩りを与えている。対面式の台所からは、調理の様子が五感を通して伝わり、生活感がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルとは別にいすとテーブルを用意しています。またそれぞれの個室で数名で過ごされることもあります。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	何か馴染みのあるものを部屋においていただくようにご家族にお願いしています。家族写真は必ずおいていただくように心がけています。	各居室には、ベッドやソファ、仏壇、ミシン等、一人ひとりの使い慣れた物や、好みの物が持ち込まれていることが確認出来、本人本位の空間作りに努めていることがうかがえる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を行い安全に生活できるようにしています。緊急時の避難経路も掲示しています。		